



日本製鉄 2030中長期経営計画

Nippon Steel
2030 Medium- to Long-term
Management Plan

2025年12月26日
代表取締役 社長兼COO
今井 正
日本製鉄株式会社

目次

1. サマリー

2. 国内：さらなる収益基盤の強化による収益力向上

3. 海外：グローバル成長戦略の実行による飛躍的利益拡大

4. 鉄以外のセグメント各社の成長戦略

カーボンニュートラルビジョン2050の着実な推進

5. 当社戦略を支える経営基盤の強化

日鉄ソリューションズ

IT需要を確実に捕捉し、高収益体质を構築

● NSSOL2030ビジョン

- 顧客伴走型から価値提案型へ(高収益ビジネスモデル転換)
- 積極的なM & A実行

● 日鉄グループへの貢献

- DX推進、セキュリティ強化支援
- AI等活用により生産性向上(開発、保守・運用プロセス効率化)

NSSOL
2030ビジョンSocial Value "Producer"
with Digital

営業利益

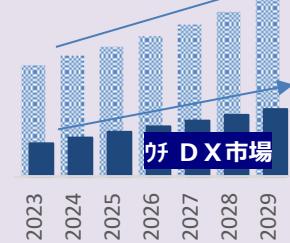
1,000億円

2030年代の早期に

市場成長を超える利益成長

国内IT市場予測

年率～10%

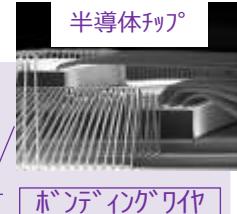


日鉄ケミカル&マテリアル

事業構造の強化と半導体関連分野での成長戦略を推進

● 機能材料 : 伸展する半導体市場（年6%平均）の成長捕捉

● コールケミカル・化学品 : 原料（タール等）減少を踏まえた最適な生産・販売対応



日鉄エンジニアリング

環境・カーボンニュートラル等の成長領域へ経営資源を集中

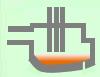
● 既存領域 : 廃棄物処理・建築分野でのDX活用により生産性向上、オンラインサイト供給拠点を拡大

● 成長領域 : 洋上風力案件を着実に受注、CCSバリューチェーン一貫実行体制整備



技術と市場形成の両面での取り組みで 2050年カーボンニュートラルの実現へ

大型電炉の 実装



大型電炉での 高級鋼製造

電炉での高級鋼製造技術・
大型電炉での量産技術を確立

八幡・周南・広畠での実装工事遂行

2030年

CO₂総排出量削減 (対2013年)
▽30%削減・▽31百万t/年

GXスチール 市場の形成

「CO₂削減価値」を
バリューチェーン全体で負担する
GXスチール市場の形成に取り組む

革新技術開発 (水素製鉄)

世界に先駆けた
技術開発を推進



高炉 水素還元



水素による 還元鉄製造 (シャフト炉等)

~2040頃
実機化技術
確立

2050年
カーボン
ニュートラル

GXスチール販売の取り組みと
CO₂削減価値が評価される
ルール作りが必要

巨額の投資を含め
上昇するコスト回収のための
社会環境整備が必要

製鉄には
「電力→再エネ・原子力」のような
既存の脱炭素技術は存在しない

カーボンニュートラル鉄鋼生産プロセスには
大量の安価な水素・脱炭素エネルギー
が必要

GXスチールの制度化 国際標準化

投資回収の予見性

- ① 政府支援(CAPEX,OPEX)
- ② 「GXスチール」市場形成

公共調達におけるさらなる需要創出
民間企業におけるさらなる調達の拡大 等

革新技術開発の推進

- ① 政府による支援(GI基金)
- ② 産官学連携強化

社会インフラ整備

- ① 水素・脱炭素エネルギー
- ② CCUS



NIPPON STEEL

2030中長期経営計画の達成を通じて
「世界No.1の鉄鋼メーカー」への復権を果たし
日本経済の復活に貢献します



NIPPON STEEL

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、本動画撮影時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。